

産業廃棄物処理計画書

令和 8 年 5 月 21 日

(宛先) 高崎市長

提出者
住 所 埼玉県朝霞市西原一丁目 1 番 1 号
氏 名 株式会社武蔵野
代表取締役 安田 信行
電話番号 027-345-2005

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 武蔵野 群馬工場
事業場の所在地	群馬県高崎市綿貫町 1429-1
計画期間	令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：製造業 中分類：食料品製造業
②事業の規模	前年度生産高実績： 137 億 8900 万円
③従業員数	792 名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①参照



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙③の通り	
	排出量	別紙③の通り t	t
	（これまでに実施した取組） 別紙③の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙③の通り	
	排出量	別紙③の通り t	t
	（今後実施する予定の取組） 別紙③の通り		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ごみ袋を色分けして廃プラスチックごみと動植物性残渣とを区分けしている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 分別の徹底、教育の実施。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 自社では該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 自社では該当なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 自社では該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 自社では該当なし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 自社では該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 自社では該当なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙④の通り	
	全処理委託量	別紙④の通り t	t
	優良認定処理業者への委託量	別紙④の通り t	t
	再生利用業者への委託量	別紙④の通り t	t
	認定熱回収業者への委託量	別紙④の通り t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への委託量	別紙④の通り t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙④の通り		

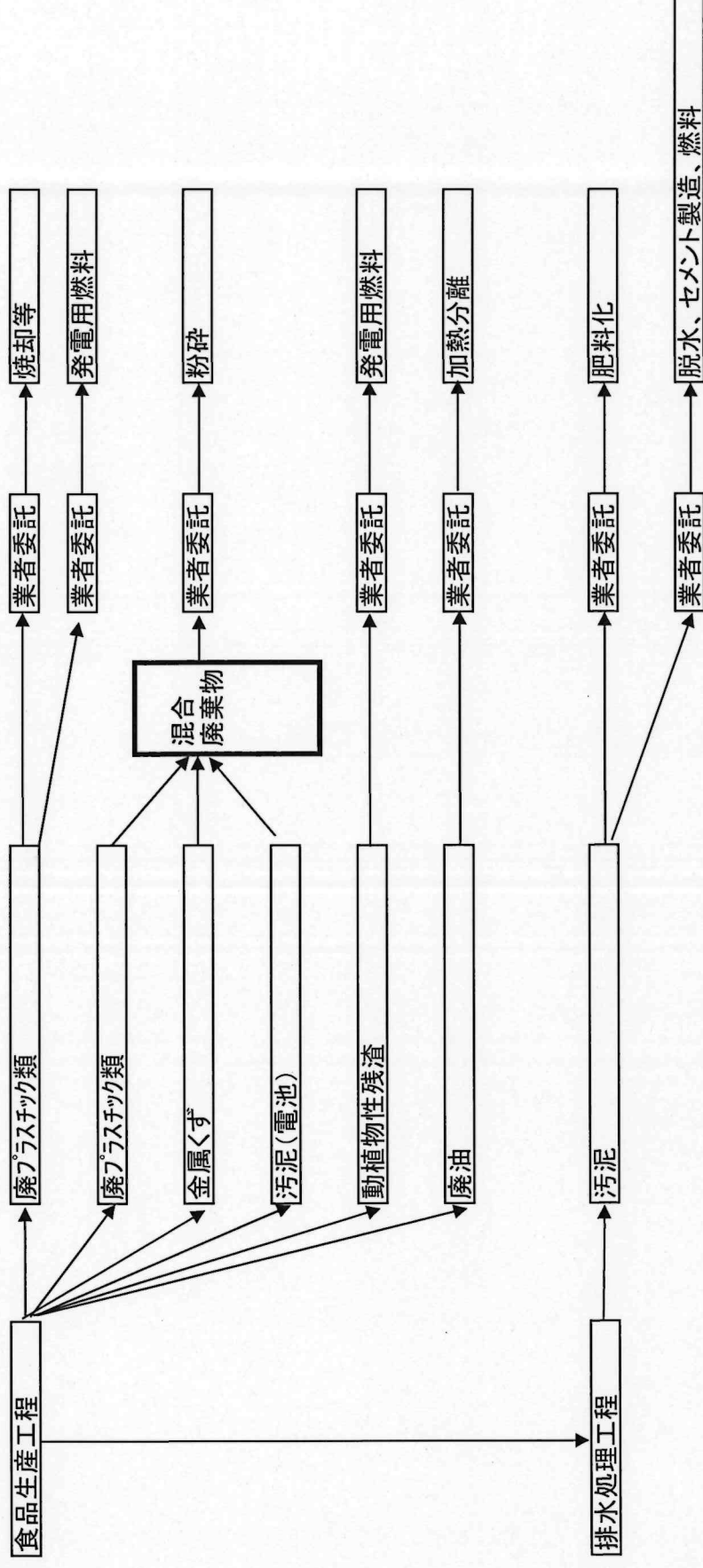
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙④の通り	
	全処理委託量	別紙④の通り t	t
	優良認定処理業者への委託量	別紙④の通り t	t
	再生利用業者への委託量	別紙④の通り t	t
	認定熱回収業者への委託量	別紙④の通り t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への委託量	別紙④の通り t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙④の通り		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

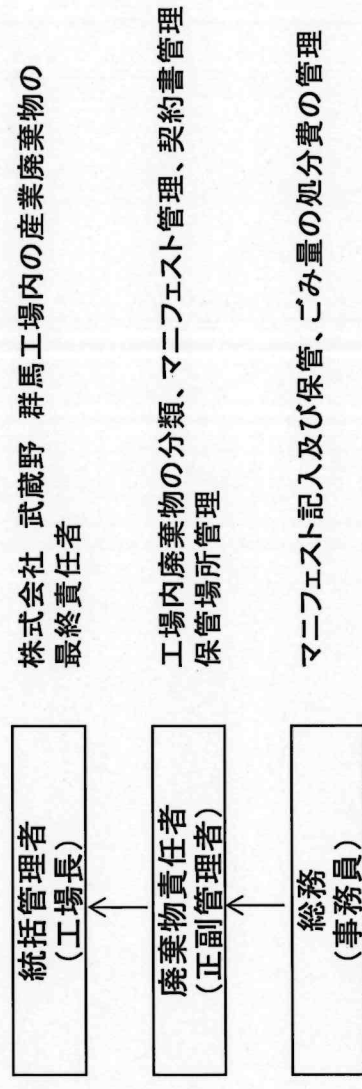
産業廃棄物の一連の処理工程(別紙①)

令和8年5月21日



廃棄物管理組織図(別紙②)

令和8年5月21日



①現状	前年度(令和6年度)実績				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	混合廃棄物 汚泥・金属くず・ ガラス、コンク リート、陶磁器く ず	動植物性残渣
	排出量	1337.6 t	482.16 t	22.869 t	1077.02 t
(これまでに実施した取組) 製品の作りすぎの無駄を出来る限り減らす。 分別をしっかりと行う					

②計画	目標				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	混合廃棄物 汚泥・金属くず・ ガラス、コンク リート、陶磁器く ず	動植物性残渣
	排出量	1475.0 t	531.0 t	25.0 t	1188.0 t
(今後実施する取組) 再度、製品の作りすぎの無駄を出来る限り減らす。 分別をしっかりと行う					

②計画	目標					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	混合廃棄物 汚泥・金属くず・ ガラス、コンク リート、陶磁器く ず	廃油	動植物性残渣
	排出量	1475.0 t	531.0 t	25.0 t	0.0 t	1188.0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	780.0 t				
	再生利用業者への 処理委託量	1475.0 t	531.0 t	25.0 t	0.0 t	1188.0 t
	認定熱処理回収業者への 処理委託量					
	認定熱処理回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量					
	(今後実施する予定の取り組み)					
製品の作り込みや、製品の作りすぎを減らす。 ゴミの集計を行い、分別をしっかりと行う						